

管内概況

川崎市は神奈川県北東部に位置し、北は多摩川をはさんで東京都に、南は横浜市にそれぞれ隣接し、西は多摩丘陵地帯をひかえ、東は東京湾に臨み、市域は多摩川に沿って、南東から北西に長く伸びた地形となっている。一方、横浜市鶴見区は横浜市最東端に位置し、川崎市の川崎区・幸区に接している。

当所管内である臨海地区においては、明治のころから埋め立てが進み、戦前より重化学・重機、鉄鋼、石油精製、電力などの重厚長大産業が集積する京浜工業地帯として今日まで我が国の経済成長を支えてきた。近年は、芸術関係での産業振興に力をいれており、川崎駅周辺でのチネチッタプロジェクトやミュージア川崎の建設により、「音楽のまち・かわさき」を推進している。

川崎市の表玄関である JR 川崎駅周辺は、銀行、官公庁、図書館、市民ギャラリー、ビジネスホテルなどの施設が集中し、中心市街地としての機能の高度化、活性化が進み、川崎市のうち川崎駅東側に位置する「川崎区」と西側に位置する「幸区」が当所の管轄となっている。

川崎区には、駅から直結する地下街「アゼリア」が広がり、商業地と連絡通路としての役割を果たしている。また、交通網の整備として、羽田空港の再拡張・国際化に伴い、県や市が進める「神奈川口」として殿町地区への架橋及び殿町地区を空港周辺地区として整備する等の検討が進められている。神奈川3港のひとつである川崎港では、国際競争力強化に向けた取り組みが進められている。

幸区には、音楽のまち・かわさきのシンボルである「ミュージア川崎」と大型商業施設「ラゾーナ川崎」があり、賑わいを見せているほか、大学の研究施設や川崎新産業創造センター、産学官共同研究施設などが立地し、研究開発の拠点となっている。一方で、鶴見川と多摩川に挟まれて、自然の多い風景を持ち合せた地域でもある。

鶴見区内では、産業構造の変化がすすむ中、研究開発施設や先端的な技術を活用する生産・流通施設などが立地し、都市型産業ゾーンへと変貌を遂げようとしている。

管内の人口をしてみると、川崎市の人口は平成 25 年 4 月 1 日現在、1,440,474 人で前年同月比 0.57% の増加となっている。当所の管轄区域である川崎市川崎区、幸区及び横浜市鶴見区の人口は、平成 25 年 4 月 1 日現在 651,421 人であり、そのうち、鶴見区の人口は 277,578 人である。

雇用保険適用事業所数は、平成 25 年 3 月末現在 9,779 事業所で前年同月比 1.3% 増である。業種別では、製造業（18%）、建設業（16%）、卸売・小売業（15%）が高い割合を占めている。雇用保険被保険者数は、221,725 人で前年同月比 1.8% の減である。業種別では、製造業（28%）、運輸業（12%）、卸売・小売業（11%）、サービス業（11%）、情報通信業（8%）の順で高い割合を占めている。